

平成30年度  
丹波市施政方針

新たなまちづくりへの鼓動

～輝く未来都市への挑戦～



丹(まごころ)の里

丹波市

# 目 次

1	はじめに	1
2	重点施策	
1)	未来を見据えた都市基盤の整備推進	6
2)	ターゲット年に向けたシティプロモーションのさらなる展開	9
3)	医療・保健・介護・福祉の連携	12
4)	安全・安心なまちづくり	13
5)	未来を拓く産業の振興	16
6)	交流によって創る地域づくりの推進	21
7)	明日の丹波市を支える人づくり	25
8)	地域と共に育む教育の推進	29
3	平成30年度予算額	30
4	むすびに	31

## 平成30年度 丹波市施政方針

### 1 はじめに

春の訪れが感じられる本日、平成30年第95回丹波市議会定例会の開会にあたりまして、議員の皆様方にはご健勝にてご出席を賜り厚くお礼申し上げます。

本日、ここに平成30年度予算並びに諸議案をご審議いただくにあたり、市政運営にあたる私の所信の一端を述べさせていただき、議員並びに市民の皆様方のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

一昨年12月に市長に就任させていただき、初めての予算編成から早や1年が過ぎました。平成30年度の予算編成にあたり、「丹波市元年」と位置づけた2019年度に向けた準備の年として、諸課題に的確に対応していきます。

これより平成30年度の施政の課題認識と基本的な考え方について述べます。

一昨年12月4日、就任前日に辻前市長から引き継ぎを受けた中で次の2点は生涯、忘れることはありません。

1点目は「見える化」、2点目は「丹（まごころ）の合併」です。

3期12年に亘って大変なご苦勞をされた前市長であっただけに、数多くの引継ぎ項目の中でも私は「心の叫び」と感じました。

1点目の「見える化」は、多くの計画を作ってきたが、これからは実行段階。あなた（谷口）にはそれを市民の方々に「見せて」欲しい。すなわち、「実現してほしい」との意味に理解しました。

2点目の「丹（まごころ）の合併」は、6地域の対等合併という厳しい背景の中で、「合併してよかった」と市民一人ひとりが心の底から言える、そんなまちづくりをしてほしい。」と、辻前市長は熱く語られました。

市長に就任して1年と2ヶ月、この2点が、私が目指すべき「大きな目標」であると今更ながらに心に刻んでおり、また、これまでご提案し、実行してきたこと、またこれから進めていきたい施策の

原点は、まさにここにあります。

われわれ日本人がかつて経験したことの無い急速な人口減少期に突入するにあたり、過去の事例が参考にできない、いわば「羅針盤の無い船出」をするような心細さ、不安はあります。

しかし、確固とした「信念」「覚悟」をもって大海原を乗り切っていかなければならぬ、と決意を新たにしているところでもあります。

さて、来る新年度予算を一言で言い表すと何だろうと考えました。

### 「脱皮への鼓動」

いきものの中には成長に従って古い殻を脱ぎ捨てるものが多いです。この「脱皮」する姿勢は人間が成長しようとする場合にもなくてはならない重要なステップです。

丹波市にとってありがたいことにその「脱皮のタイミング」がまさに今、訪れていると言えます。そのワクワクドキドキする高揚感・

鼓動・ビートを、市民の方々、職員と共有し成長の足掛かりにした  
いのです。

言うまでもなく課題は山積です。しかし、それを「モチベーショ  
ン」という強いベクトルに変換して、前進する気迫・覚悟を持ち、  
多くの市民の方々に伝えていくことこそ、私に課せられた重い責  
務・ミッションと認識しています。

「負託された任期の4年間で【起承転結】のリズムで乗り切りた  
い！！」と再々申し上げました。照準を当てたのは3年目「転」と  
なる2019年度ですが、そこに至るまでのお膳立てのための平成30年  
度は、たいへん重要な年になります。2019年度のための「エネルギ  
ー・知恵の溜め込み」がなければ、発射台にロケットはセットでき  
ません。

ここで重要なことは、「単なる情報発信」「PR合戦」に巻き込まれ  
るのではない、ということです。

自分たちの持つ「丹波市ならではの良さ・強み」を再認識してそ

れに磨きをかけ進化させて「他の地域からも一目置かれる・リスペクトされる住みやすいまち」にすることが最も重要です。

私たちにとって必要なことは「新たな観光客 1000 人来てもらう」よりも「丹波市ファンになった方々 100 人にリピーターとして 10 回来ていただくこと」の方が意味があります。真の丹波市ファンをおもてなしの心で一人でも多く増やしていくことが大きな目標のひとつです。

かつて戦前に国の掲げたスローガン「よき道たどればよき里あり。」

くらしやすい里をつくっていくためには、手順が必要です。

中国の故事にもあるとおり「桃李もの言わざれども下自ずから蹊を成す。」

おいしい果実の下には、ことさら P R しなくても人が集まってきます。このような誇り高いまちづくりを進めたいものです。

そのため平成 30 年度の基本姿勢はまずは「洞察力」。

このまま指をくわえて居れば 20 年、30 年先この「まち」はどんな

るのでしょうか。

つぎに「直観力」。今この時、この「まち」をどのようにデザインしていくのか、そのための知識・見識・経験知は持ち合わせているのでしょうか。

そして「実現力」。将来の丹波市のために今、実行することが正しい、と信じることをやりきる決断力、そして「覚悟」が必要です。

「1、洞察力！ 2、直観力！ 3、実現力！」

この三拍子で平成30年度を突破したいと念じ、「脱皮への鼓動」を感じながら当初予算を提案させていただきます。

それでは、これより新年度の主な重点施策について、ご説明申し上げます。

## **2 重点施策**

### **1) 未来を見据えた都市基盤の整備推進**

#### **(1) 新しい都市構造づくりへの始動**

人口減少が進む中においても、将来にわたってまちの活力を維

持し発展する効率的な都市構造をつくるために、一定の官民の都市機能を集積させるとともに、一方で生まれ育った地域の文化・風土・人のつながりを大切にし、住み慣れた地域で生きがいを持って住み続けられる・そんな市民生活の実現に向け、学識者や市民参加による「丹波市未来都市創造審議会」を設置し、将来の発展を見据えた都市の将来像や都市構造のあり方を「まちづくりビジョン」として明確に示していきます。

加えて、昭和初期の面影を残す柏原支所を含む柏原庁舎全体の利活用総合計画を策定し、観光振興機能及び行政機能の適切な配置を検討します。

また、行政運営の長期ビジョンとして位置づけた「第2次丹波市総合計画（前期）」が2019年度に5年を迎えるため、「第2次丹波市総合計画 後期基本計画」の策定に着手します。

## **（2）暮らしを支える都市基盤の整備**

何処に住んでいても集積された都市機能サービスが享受できるように、基幹交通としての鉄道、路線バス、それを補うデマンド（予約）型乗合タクシーなどの公共交通網のさらなる充実や、医療・保健・介護・福祉が連携した地域包括ケアシステムを推

進する拠点の構築に向けた土地利用方策など、関連施策の方向性について、検討を進めていきます。

加えて、丹波市道路整備計画に基づいた市道の整備や、通学路対策として「グリーン舗装」など交通安全対策、道路環境の質及び利便性の向上、道路保全、生活基盤の充実などを実施し、市道橋についても、橋りょう長寿命化修繕計画に基づき、継続して工事を行います。

また、将来にわたり持続可能な下水道事業を経営するために、下水道施設の統廃合事業も引き続き行います。

### **(3) 丹波の森づくり 30 周年記念事業**

丹波の森づくり 30 周年を契機として丹波地域全体を一つの森と捉え、森づくりのための人材育成や地域資源を生かした活動の充実を図ります。

また、森林モデル整備をはじめ「森林を未来につなぐフォーラム（仮称）」の共催など、丹波県民局・篠山市、丹波の森協会と協働で取り組みます。

## 2) ターゲット年に向けたシティプロモーションのさらなる展開

### (1) シティプロモーションの新展開

#### ①人と自然の<sup>なりわい</sup>生業が育む地域資源を市民の誇りに

ターゲット年とした2019年度は、合併15周年・丹波市豪雨災害から5年、県立丹波医療センター（仮称）のオープン、あわせて健康センターミルネ・看護専門学校・丹波市市民プラザ（仮称）・農の学校など、多くのプロジェクトが花開く節目の年になります。

このタイミングを絶好の契機と捉え、市の魅力ある地域資源の優位性に着目し、これを発掘・発展させる取り組みを市民参加型で展開していきたいと考えています。

丹波市の恵まれた自然環境、守り受け継がれた伝統文化、長年にわたり培われてきた高い技術と不断の努力が、多くのものを産み出してきました。全国ブランドと言われる農産物をはじめとする多くの人の心をとらえる特産品、また、本州一低い中央分水界「水分れ」、女子高等学校硬式野球選手権大会など全国から注目されるものが数多くあります。

まさに人と自然の<sup>なりわい</sup>生業が育んできた、誇るべき丹波市の遺産・

レガシーが脈々と息づいています。

この「人と自然の<sup>なりわい</sup>生業が育む地域資源」をテーマに、市内外に魅力情報を発信し、市民と共感を深めながらシティプロモーションに取り組みます。

## ②オール丹波市で挑むシティプロモーション

「丹波市キャンペーン 2019」に向け、市外からの来訪・交流・購入意欲の向上や、市民の愛着と誇りを一層高めるために、市民団体等が、丹波市の魅力を市内外に発信する取り組みに対する経費の一部を補助する「丹波市創生シティプロモーション支援事業補助制度」を創設し、市民の参画と活動を促進します。

また、市制 15 周年の節目に向け、市民のまちづくり活動の指針や道しるべとなる「丹波市市民憲章」の制定に向け、検討委員会を設置し、準備を進めるほか、「ふるさと住民登録制度」を新たに設けて、市外から丹波市を応援していただける人に市の魅力情報を提供し、まちづくりに参加していただく機会を通じて真の丹波市ファンの獲得につなげていきたいと考えています。

## ③民間企業、大学連携によるパートナーシップ事業

昨年から取り組んでいる全国公募のパートナーシップ事業で

の成功例としては以下のものがあります。1つ目にドローンやロケット事業を通じた丹波市の活性化として、農業分野へのドローンやI o Tの活用研究、ミニロケットの製作を通じて、子どもたちが宇宙のことや理科、科学、技術に関心を高め、夢を育むプログラムの提供を支援します。2つ目に、廃校になった小学校を利用して、多機能型児童発達支援施設を設置し、発達障がいのある児童の運動療育、障がい者や高齢者の方々のスポーツ、運動療法に取り組む事業の支援も行います。

さらに、3つ目に、豪雨災害の被災経験から復興を学ぶ「復興スタディツアー」を充実、進展させ、国内外からの観光と地域活性化につながる持続可能なプログラムを構築していきます。

その他にも、地方創生インターン学生の活動や連携大学が行う丹波市産品の商品化プロジェクトや廃校活用フェアなども連携して取り組んでいくこととなり、新しく蒔いた種は着々と実を結びつつあります。

### 3) 医療・保健・介護・福祉の連携

#### (1) 地域医療の中核拠点の整備

県立丹波医療センター（仮称）と健康センターミルネの連携を図り、医療・保健・介護・福祉の分野まで切れ目のないハイブリッド施設群による総合的サービスを提供できるよう 2019 年上期の開設に向け施設整備に加え運営体制の整備を着実に進めていきます。また、隣接して看護専門学校を整備し看護師の養成に努めるとともに、県と連携しながら医師確保と人材育成に努め、地域医療の中核拠点を目指します。

#### (2) 地域包括ケアシステムの構築

団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年を目途に、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を急ぐ必要があります。「包括的支援事業」として、平成 27 年度開所の西部地域包括支援センター、平成 29 年度開所の南部地域包括支援センターに続き、平成 30 年度は東部地域包括支援センターの準備に着手し、2019 年度開設を目指します。

加えて、平成 29 年度から運用している ICT を活用した予防

接種ネットワークを発展させ、「処方・調剤情報の共有化」を行い、医療・介護・調剤分野の連携環境を整えていきます。

また、健康センターミルネのオープンに先立ち、平成 30 年度はプレイベントとして、地域包括ケアシステム構築のリレーフォーラムを開催します。そもそも、丹波市ならではの地域包括ケアシステムとはどのようなものなのか、私たちの生活にどんな恩恵をもたらしてくれるのか、などについて市民の方々の理解を深めていただく機会を設けます。また、地域包括ケアシステムをはじめとした健康福祉施策のPRをするためFM805たんばを活用するなど積極的に広報を行います。

#### **4) 安全・安心なまちづくり**

##### **(1) 豪雨災害の経験・教訓の継承**

全国的に注目される丹波市復興モデルを幅広く情報発信し、新たに整備する復興砂防公園などをつなぐ復興メモリアル回廊の設定など豪雨災害の経験と教訓を風化させないよう継承し、災害に強いまちづくりを進めます。

あわせて、豪雨災害から5年を迎える2019年度に発行予定の経験と教訓を伝える記録集の作成に取り掛かります。

## (2) 災害に強いまちづくりの推進

誰もが安心して住み慣れた地域で暮らせるよう、自治会等の自主防災組織に加え、自治協議会による共助体制づくりを支援する「自主防災組織育成助成事業」、や「内水対策事業」として北柏原川・応地川の浸水対策、田んぼダムなど、災害に強いまちづくりを推進します。

また、大規模な災害が起きたときに、行政として優先的に対応すべき業務を示す「業務継続計画（BCP計画）」の充実を図るとともに、他市町や関係機関からの応援を迅速かつ効率的に受け入れられるよう「受援計画」の策定を検討し、非常時優先業務を適切かつ迅速に実施できる体制を築きます。

平成 28 年度から整備を進めている「防災行政無線デジタル化等整備工事」について、市全域に防災情報の伝達手段を充実させるため 2020 年 1 月の完成を目指し引き続き推進していきます。

消防体制の整備では、山東地域で消防車・救急車の乗り換え運用を開始するほか、青垣地域では救急隊の駐在日を増加して救急体制の充実を図ります。また、「消防団の詰所、ポンプ自動車の更新」や、「消防水利の整備」に加え、火災予防啓発用に「女性

消防分団の広報車」を新たに導入するなど、常備・非常備消防それぞれが連携しながら市民の安全安心を確保いたします。

また、安全で安心な水の供給を目指し、平成 29 年度に策定した「丹波市水道管路更新計画」に基づき、平成 30 年度は実施設計を行い、2019 年度から本格的に管路の更新工事を実施していきます。

### (3) 誰もが安心して暮らせる社会の構築

平成 29 年度末に策定する「障がい者・障がい児福祉プラン」に基づき、障がい者の相談ネットワークの再構築と体制強化を図るため「障がい者基幹相談支援センター」を設置します。さらに、障がい者の「工賃向上支援事業補助金」として、自主製品販売の「移動販売車等」の購入補助を新設し販路拡大に取り組んでいきます。加えて、事業者や自治会が、障がいのある人に必要な、スロープや手すり、スライド式ドアの設置など、社会的障壁を除去するような「合理的配慮」を行う場合の改修補助を新設します。

また、市民生活において、暴力を許さず次世代にDVを残さない社会の実現に向けて、配偶者等からの暴力に苦しんでいるDV被害者の保護や自立支援のための中心的な役割を果たす「配偶者

暴力相談支援センター」の開設に向けた検討を行います。

消費生活に関する相談窓口である丹波市消費生活センターでは、専門相談員を1名増員し2名体制として、消費生活にかかる相談の充実や情報提供について積極的に取り組んでいきます。

## 5) 未来を拓く産業の振興

### (1) 農林業の振興

#### ①農業の新たな担い手の育成と確保

県下最大の農地面積を誇る丹波市において、少子高齢化による農業の担い手不足は深刻な課題です。反面、丹波市ブランドの農産物や有機農業に魅力を感じ、新規就農を志す若者の相談が多くあることは喜ばしいことです。農業技術や経営・農村文化を学び実践でき、丹波市の歴史ある有機農業を学ぶとともに、農業の担い手として定住を目指す新規就農者を育成する「農の学校」を平成31年4月に開校するため、「農の学校開校準備事業」として施設整備を進めるとともに、生徒の募集を行います。

加えて、地域農業の未来設計図である「人・農地プラン」に、担い手として位置づけられた組織や認定農業者に対し、「人・農地問題加速化支援事業」や「担い手農業者育成事業」を通し

て機械購入等の支援を行います。法人化を目指す個人認定農業者を後押しするため、新たに「認定農業者法人化支援事業」を新設し支援していきます。

さらに、近年、丹波市でも女性農業者の活躍が増えつつあるため、新たな担い手として組織的に活動できるよう「女性農業者支援事業」に取り組み、活動を支援していきます。

そのほか、鳥獣害防護柵設置にかかる地元負担の軽減や、門扉設置できない道路にグレーチングを設置するなど、鳥獣被害対策を行います。

## ②特産物の振興と海外進出

米の直接支払制度廃止後の水田農業対策として丹波大納言小豆等の「特産物振興交付金」を拡充し、ニンニクを新たに追加し特産化を推進するとともに、他県産との差を明確にするため、丹波栗の丹波市独自の認定条件を検討し「丹波市仕立て（仮称）の丹波栗」のブランド認証の試験的取り組みなど、丹波市安全安心認証制度の仕組みを作り、その優位性とブランド価値を確立していきます。

また、新たな取り組みとして丹波市産農産物の海外輸出に

チャレンジする事業者を後押しするため、新たに「農産物輸出促進事業」を新設し支援していきます。

### ③林業の振興

平成 27 年度から始まった市民参加型の森林整備を進める「木の駅プロジェクト」と、森の健康診断によって木の価値を見定め、目的に応じた木材利用を考える「モリタナプロジェクト制度」への参加を通じ、新たに設置する「林業普及推進員制度」を効果的に活用いただくことで、地球温暖化防止や多面的機能の回復など適正な森林整備に努めます。

また、地元産材を利用する基準と活用数値の目標を定めた「公共建築物等における木材利用推進プラン」策定に向け、木材コーディネーターを交えた委員会を開催し、地域木材流通の課題について協議研究を行います。

## (2) 商工業の振興

将来にわたり活力ある地域社会を維持向上していくためには、特色を生かした商工業を持続し、市内産業の新たな価値を創造したまちづくりが大切になります。

2019 年度の夏に、県立丹波医療センター（仮称）がオープンす

るこの機を生かし、医療・保健・介護・福祉分野の企業立地への取り組み強化も意識しながら、地域未来投資促進法に基づく産業の活性化につながる基本計画を策定していきます。

また、「丹波市中小企業・小規模企業振興基本条例」に基づく商工業の振興として、丹波市商工会とともに市内事業所の基本情報をデータベース化し分析する経営支援システムの構築を支援する「中小企業者等経営支援システム構築事業」に取り組みます。さらに中小企業者が販路拡大、顧客獲得に向け自社ホームページを新規作成する場合には、「中小企業者等ホームページ作成事業」を、地域資源を活用した新商品を開発する場合は、「地域資源活用促進事業」を活用いただき、地域経済の底上げを図ります。

また、市内で新規に起業する方には、「新規起業支援事業」として初期投資費用の支援など活性化に努めます。

### **(3) 観光の振興**

平成 29 年度末に策定する「丹波市観光・商工業ユニティプラン」では観光を丹波市経済の基幹産業のひとつに位置づけようとしています。従来の日帰り観光から経済効果が高い宿泊型観光への転換も重要な視点であり、そのための体制づくりもこれからの課題です。

柏原支所の観光拠点化もその視点から慎重に検討を進めていきます。

ストレスを感じることなく、観光を楽しめる環境づくりのため、また、東京オリンピック・パラリンピック開催にあわせて、インバウンド観光に対応できるよう市のホームページや観光サイト・パンフレットの多言語化、Wi-Fi機器の増設・観光トイレの洋式化など、観光インフラもあわせて整備し観光客の誘致を図ります。

#### (4) 丹波竜の活用

本年2月には、川代トンネル工事で篠山層群の中から新たな恐竜化石が発見されました。この篠山層群は、恐竜化石研究では国内第一人者の北海道大学・小林快次准教授から、化石の宝庫・金脈と賞賛されています。

来る3月24日には、春日文化ホールにて、市内で撮影された映画「きょうりゅう 恐竜の詩」の先行上映会が開催され、6月には東京都渋谷区の映画館を皮切りに順次、全国で公開が予定されているところです。

また、ちーたんの館の入館数は年々大きな増加を示しており、平成27年度から毎年1万人ずつ増え、平成29年度は6万人を超える見込みです。さらなる入館者数の増加を目指し、今年の夏、大好評

であった「夏期特別展やナイトミュージアム」も引き続き開催し、加えて、恐竜の全身骨格をさらに設置するなど、子どもたちの夢を膨らませる楽しい仕掛けを用意し、さらに冬季の入館者数の増加を目的に、「丹波竜フェスタ」終了後、「冬季特別展」の開催を予定しています。

さらに、先週には「にっぽん恐竜協議会」で急接近した、北海道むかわ町から6名の方々が丹波市に視察に来られましたが、こうした交流をさらに拡大していきます。

## **6) 交流によって創る地域づくりの推進**

### **(1) 市民主役の地域づくり活動への支援**

市民が主体となった公益的な活動を総合的に支援する「丹波市市民活動支援センター（仮称）」と男女共同参画社会の実現に向けた取り組みを行うための具体的な活動の拠点となる「丹波市男女共同参画センター（仮称）」の機能を有する「丹波市市民プラザ（仮称）」は、2019年10月オープンに向けて取り組みます。

平成30年度は、丹波市市民活動支援センター（仮称）の運営に携わる人材育成と拠点施設改修に向けた実施設計を行います。

また、市民が住み慣れた地域で豊かな暮らしを送り続けるため、

地域の多様な課題を自治機能の高まりにより主体的に解決を図る「小規模多機能自治」の形成など自治組織のあり方を検討する懇話会を設置します。

加えて、男女共同参画の取り組みとしては、平成 29 年度末に策定する「第 3 次丹波市男女共同参画計画」に基づき、今後、2022 年までの具体的な数値目標を掲げて推進するとともに、その取り組みを、常設の審議会を新たに設置し、フォローアップしていきます。

また、市として男女共同参画社会の実現に向けた理念を掲げ、市民、事業者、団体、行政がそれぞれの責務により男女共同参画を進めるための条例を制定するとともに、「たんばの女性W a k u × D o k i フォーラム」を開催し、丹波市男女共同参画センター（仮称）設置に向けた機運を醸成します。

## （2）移住・定住対策の推進

移住・定住希望者等へ効率的・効果的に行政サービスを提供する体制を構築し一層の移住・定住促進に繋げるため、現在、実施主体が分かれている移住・定住業務をまとめ、「定住促進センター（仮称）」業務として一元化し、丹波市への移住定住を強力に後押しします。

柏原地域で古民家を取得し、宿泊機能を備えた地域拠点施設として「農泊推進事業」を展開するとともに、「エリアマネジメント」という新しい考え方を導入し、既存の店舗等を含めて互いに連動・連携することで、一定のエリアでの「人の行き交い」を生み出し、地域課題の解消、観光振興や移住定住の促進、雇用の創出につなげます。

また、若い世代のU・Iターン者や希望者と応援する市民とのつながりなどを目的に、子育てママ交流会など、様々な交流会を「たんば移充計画」に基づき進めていきます。

### **(3) 空き家対策の推進**

平成28年度から移住定住促進効果を高める施策として、市が所有者から借りた空き家をU・Iターン希望者などに貸し出し、定住するきっかけづくりとして「定住促進住宅整備事業」を引き続き行います。また、自治会等が主体となって空き家を地域の交流拠点として整備する場合の「空き家利活用地域活性化事業」も継続して行います。

### **(4) 連携による地域づくり**

持続可能なまちづくりの実現には、行政のみならず、地域社会や

多彩な自治体、大学、企業などと柔軟かつ強靱な連携ネットワークを築く必要があります。

### ①自治体連携

特色ある地域資源の活用や教育文化の発展、恐竜化石を活用した自治体連携として、昨年 11 月に北海道むかわ町・熊本県御船町・篠山市・丹波市の 4 市町において「にっぽん恐竜協議会」を組織しました。

具体的な自治体間交流では、丹波市の小学生が「こども恐竜大使」として北海道むかわ町を訪問し、丹波竜を紹介する「竜学」を行います。

また、近隣自治体では、生活・文化・経済圏が同じで、これまでから人・モノの交流が活発な福知山市、朝来市、丹波市の 3 市で連携して地方創生推進交付金を国から認められており、さらに各事業を推進していきます。

その他、昭和 56 年の姉妹都市提携により旧柏原町と旧大宇陀町との交流があった奈良県宇陀市との自治体連携を目指し、具体的な交流事業も含め協議していきます。

## ②大学との連携

大学との連携では、これまでも青垣地域において関西大学と、柏原地域では関西学院大学と取り組んできましたが、平成30年度には昨年10月に包括連携協定を結んだ武庫川女子大学と、地域づくりや教育・文化・スポーツの振興、健康増進、人材育成について連携して取り組みます。

さらに、今後は、福知山公立大学や神戸国際大学などと、地域課題の解決に向けた取り組みを連携して進めます。

## ③企業との連携

企業連携として、昨年7月に市民の健康、スポーツの維持・増進のため大塚製薬株式会社と連携協定を結ぶなど、企業とのネットワークも結びながら互いの特性を生かした連携体制を構築していきます。

## 7) 明日の丹波市を支える人づくり

### (1) 子育て支援の充実

平成30年度は、合併以降、幼保一元化を目指し長年にわたり取り組んできた認定こども園の整備が、関係者の皆様のご協力・ご尽力の末、ようやく市内全域で完了する見込みです。

社会全体で子育てに取り組み、安心して子どもを産み育てられる環境を目指し、妊娠期から子育て期にわたる様々なニーズにワンストップで対応する「子育て世代包括支援センター」を平成30年4月開設し、新たに「産前産後サポート事業」や「産後ケア事業」を実施いたします。

あわせて、質の高い保育を提供するため、「保育人材確保事業」として、平成28年度から開始した保育教諭の給与アップによる処遇改善を継続し、あわせて新たに「キャリアアップ研修」の実施や「短時間保育補助者」の登用などを行い、保育人材の確保を促進します。また、「中学3年生までの医療費無料化」は、平成30年6月末で期限切れとなりますが、これをさらに2021年6月まで3年間延長し引き続き行います。

## (2) 女性・若者の活躍支援

女性の活躍は地域活動や経済活動に、多様な視点や価値観をもたらします。職場における女性活躍について、「女性活躍推進協定」を締結した事業所が設備投資を拡充する場合の「女性活躍推進整備投資補助金」や、女性が働きやすい就業規則の見直しを行った場合の「女性活躍推進助成金」を引き続き行い、職場におけるワ

ワークライフバランスや女性の活躍を一層推進します。

出産・子育て・介護等の家庭事情により、離職している女性有資格者の福祉職場への復帰を支援する「女性有資格者福祉人材支援補助金」の要件を広げるとともに、丹波市外からの有資格者を丹波市内への居住と就労に結びつけるため「福祉人材確保家賃補助金」を支給するなど、福祉人材の確保を積極的に進めます。

「高校生提案事業」として、昨年8月開催した高校生とのタウンミーティングで提案された意見を参考に、柏原駅周辺でのイルミネーションイベントを事業化します。市内在住の高校生が自らまちづくりを体感し「暮らし続けたいまちづくり」への参画を促します。

また、結婚を希望する若者の願いを支援する取り組みとして、現在、実施している「婚活おせっかいマスター」による結婚相談支援のしくみを生かしながら、市内全域に結婚支援の機運を高めるため、より多くの人々が結婚について気軽に相談できる場所づくりなどを民間活力とともに進めて行き「婚活支援事業」の展開を図ります。

職場や家庭・地域社会で個性と能力を発揮しながら、いきいきと

活躍する若い姿は、まちに明るさと活力を与えてくれます。活躍人口の増加は、人口減少対策と密接に関連しており、子育て支援環境の充実などを含めこれらを一体的に推進していきます。

### (3) 芸術・文化の振興

本市では、これまで芸術・文化に関する基本計画を持っておりませんでした。芸術・文化を長期的視点、戦略的視点をもって推進するため、2019年度に「文化芸術推進基本計画」の策定を目指し準備を進めます。

また、「丹波の森構想」の一環として、開館から約30年が経過する水分れ資料館を、新たに「氷上回廊」をテーマに掲げ、その特性を総合的に発信できる展示にリニューアルします。

「水分れ」は、かつて河合雅雄先生が「国の天然記念物に指定されてもよい学術的に貴重な自然財だ。ただし、公園のあり方に工夫がいる。源流らしい自然な姿を保全する景観づくりが必要だ」と仰っています。

このリニューアルを「(仮称)氷上回廊水分れフィールドミュージアム拠点整備事業」として取り組み、その類まれなる「水分れの地勢」を丸ごと“地域の宝物”と捉え、本施設を含めた地域資源を

生かしたまちづくりに積極的に取り組みます。また、シティプロモーションの一翼を担うことを目的に、丹波市への誘客を推進する方策を検討していきます。

## **8) 地域と共に育む教育の推進**

### **(1) 外国語指導とICTの充実**

世界を広げるコミュニケーションツールである外国語の指導の充実と海外との交流学習の拡大、さらに意欲と目的をもって英語に取り組む中学生を増やすために「英語チャレンジ検定」の創設を行います。

子どもたちが、将来どのような職業に就くとしても時代を越えて普遍的に求められる「プログラミング的思考」をはぐくむ教育を計画的に実施するなどICTを効果的に活用していきます。また、キャリア教育については、起業家精神を学ぶ「アントレプレナーシップ教育」の実施に向けて、調査研究を進めます。

### **(2) ふるさと教育（地域教育）の充実**

「地域に誇りをもち、自分たちの未来を創る丹波っ子！」の育成と、地域と一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校」を目指し、学校と保護者や地域が知恵を出し合い、よりよ

い学校運営につなげる「コミュニティスクール（学校運営協議会制度）」を、全学校に導入します。

### （３）教育環境の整備

安心して学べる学校づくりに向けて、「小・中学校空調設備整備事業」や「トイレの洋式化」、など教育環境の充実を図ります。

山南地域の中学校統合にかかる協議においては、休止になっている「山南地域市立中学校統合準備委員会」を再開させ、基本的な方向性や市の考え方を示していきます。

## ３ 平成３０年度予算額

以上、平成 30 年度の主な重点施策を述べさせていただきました。

これらの施策を展開するための予算規模としましては、

一般会計	388億円
特別会計	169億1,150万円
公営企業会計	97億2,550万円
合計	654億3,700万円

を計上しております。

一般会計は、前年度と比較しますと、6億円、1.6%の増となっております。

特別会計は、前年度比3.1%の減、公営企業会計は、前年度比1.0%の減となっております。

## 4 むすびに

2018年度（平成30年度）は、「丹波市創生シティプロモーション」の取り組みの2年目となり、2019年度に開花させる様々なプロジェクトの計画内容を具体化していき、市民の皆様に分かりやすく情報共有し、その協力と参画のもと実現していくことが何よりも大切だと考えております。

丹波市の魅力づくりや情報発信、認知度の向上に市民の皆さんが、主体的に取り組む機運を高めるとともに、丹波市の魅力資源の優位性にさらに磨きをかけて市民が共有できる地域ブランドを確立し、地域経済の波及効果につなげていくことが重要であります。

なかでも丹波大納言小豆、黒大豆、丹波栗や山の芋などの農産物、長い歴史をもつ有機農業や薬草、丹波布の生産地など高い評価と注目を得ています。私たちには、恵まれた自然環境、四季折々の花、受け継がれてきた文化、歴史の恩恵を受けると同時に、先人たちが自然との生業なりわいのもと育んできた誉れ高き産品があります。私たちは、

これらのブランド価値を再認識し、その伸びしろをさらに磨いていかなければなりません。

今年の12月には、待望の「丹波市の歌」が完成する予定です。

我が国の著名な作曲家である千住明氏による、ふるさと丹波市の情緒ある風景、未来への広がりを感じさせる素晴らしいメロディーが出来上がりました。それに息を吹き込む歌詞を市内外から募集し、市民の関心と愛着を深めながら、市民はもとよりふるさとに思いを馳せる方々から永く愛され、誇りをもって歌い続けられる歌に仕上げていきたいと思えます。

2019年度に向け、市民の皆様とともに「ワクワクドキドキの鼓動」を高めていき、丹波市の優位性のあるシティプロモーション活動を盛り上げることにより、「人・もの・情報の注目度」は必ず丹波市に集まり、地域経済の活性化に大きな効果をもたらすものと確信しています。

それにあわせて旧6地域が、それぞれの特色・伝統文化・持ち味を發揮しながら丹波市としての一体性を意識する、人口減少下でも「住み慣れたところでいきいきと住み続ける」、そんな「丹波市流

のまちづくり」の夢を描き、実現していくことを大きな目標として  
いきます。

“夢は逃げない、逃げるのはいつも自分”

“No attack No chance”

これらを合言葉に、

市民の皆さんが夢と希望を未来に抱けるような、今よりもっと住  
みたいまちにするため、「洞察力・直観力・実現力」を念頭に、丹  
波市の将来を見据えた、施策展開に邁進することをお誓い申し上げ  
ます。